

此の書簡は私がたった今 AZTA (アメリカン禅教団) 宛に表明したものです。  
私はとくにここの長老でも、有力者でもなく、無用な存在ともいえる者なのですが、私自身今日までの長きにわたって沈黙を続けて来たことを大いに恥じるものであります。さらに、僧伽の師家の方々の殆どが一致して島野氏の名譽退職を認め僧伽内部において、すべて内々的に島野氏の何らかの形の名譽退職を進めているとの事、恥ずべき事です。  
古仏マローン和尚より2年ほど前この件に関して私に善処のため参加してほしいとの依頼がありました。私は”これは私の僧伽のことではない、私の師のことではない、私の問題ではない”という理由で沈黙を続けました。しかしながら、現在は細部にわたってすべて疑う余地のない明瞭な事となり一長年にわたる悪行とその隠匿一最早誰も沈黙を続ける事はできません。  
島野氏の”名譽退職”は許してはなりませんし、何十年にもわたって隠匿を助けて来た僧伽の人々に話し合いかたずけることも許してはいけません。

私は木の葉禅堂こそが此の事、もし何度も紙面を汚し繰り返すを続けるならば、我々の恥辱であると表明する最適の場所であるとの思いで書いています。

1月9日 2011年

親愛なる皆様

私は此の協会の新会員として、従来の会員の方々の後進者として、又私とは違った意見をお持ちの方々をも尊敬する者として、簡単にご挨拶させていただきます。この協会に加入以来私は初めて恥ずかしい思いであります。

師が弟子と不行跡を起こす事、飲酒問題を起こす事、僧伽の金を使って自分のためにBMWを購入すること、又は様々な個人問題を起こす事は普通のことではありません。又このような事は短期間の間に、又はつい最近おこったことでもありません。

乱行は何十年にも渡り、その間彼の僧伽や弟子達は見て見ぬ振りをして隠し、その間中この多くの人々は知らぬ振りをして何らなす事無くすごしてまいりました。私は島野氏も又単なる貪欲と無知の犠牲者の一人であり、実際の罪人がここにあるとおもいます。  
しかしながら同時に、一人の戒律の師でもある人間が何十年にもわたり、繰り返し、繰り返し純な人を傷つけ、事例毎に悔いる様子も殆どなく、人を傷つけた事にいかなる反省も示さない一我々の身内の中に怪物を見る思いがいたします。もしこのような人物を最も激しい言葉を持って非難することなく、いかなる名目であつても名譽退職なるものをを許すならば我々こそ恥ずべき者であるといえましょう。

”話し合う為に今少し時間がほしい”との要求は、10年おそすぎました。その機会は何年にも渡ってありました。島野氏に”優雅なる引退”を与えよう、という回答は既に失せました。彼は我々すべての者によって最も明白な最も激しい言葉で非難を受け、一切の尊敬は否定されなければなりません。(彼の何年かの功労は彼による損害を帳消しする事は出来ません) 会員達は長年にわたる隠匿を告発、我々は自分の責任を十分に果たさなかつた事を公式に認め表明しなければなりません。さらに、私達は公式に島野氏に背を向けなければなりません。その上さらに、私達はZSS (禅教団) にも背を向け、彼らが本当の改正の態度を示すまで”好ましくないやつ”としてあつかうべきでしょう。

もし、このような事件が過去に1度か2度あって教団の人々は何も知らなかった場合、隠匿をこのように何度も繰り返したのでなかった場合、私の意見も違ったものであったと思います。しかしこれは道徳問題としてカトリック教会の児童虐待、此れに伴う教会の汚名、疫病のように後々までひき続く状態に匹敵するものだとおもいます。もし私達が島野氏の優雅なる引退を許し、紙面に繰り返すならば、これは私達自身の恥辱を確立した事になります。

私達の弟子達はみまもっています。たった今私はこれらのみまもっている人々の声をききました。”戒律の師等は自分の立場を守っているだけの偽善者の集まりではないか”と。

すべての我々を恥じながら。

合掌、じゅんどう